

活動報告

団体名	川辺復興プロジェクトあるく
活動名	川辺地区まちづくり推進協議会再開に繋ぐ簡易拠点でのつながりづくり活動
活動期間	2018年10月～2019年3月
活動の成果	<p>拠点を構え、イベントをすることで、仮設住宅などで真備町から離れている人も集まることができ、ご近所や知り合い、友達に会うことができ、つながりを感じることができた。</p> <p>また、あるくの活動を通して、住民の方が「あなたたちを見ていて、川辺に帰りたいという気持ちが強くなった。」と言ってくれ、川辺の地に思いを強くしてくれた。</p> <p>物資提供や炊き出しを通して、物だけではなく、あたたかい気持ちも受け取ることができ、住民の絆が少しずつ深まりつつある。</p> <p>情報が届かず、必要な支援を受けることができなかつた方や、さみしさを募らせていた方にも、「あるく通信」を届けることができ、川辺に足を運びきっかけとなった。また、家に閉じこもりがちな方も、あるくに足を運ぶことにより生活リズムが改善されたケースもある。</p> <p>スタッフ・サポーターも、住民との関わりの中で、生きがいを感じ、自宅の復旧など大変な中でも、充実した生活を送ることができている。</p> <p>最近では、「お世話になった恩返しに」といって、あるくの活動に対して、進んでお手伝いをしてくれる住民さんもいる。支え合い・助け合いの気持ちが見えてくることもある。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>ご支援を頂いたおかげで、ほぼ崩壊してしまっていた住民のつながりをつなぎ止めることができました。なにより、たくさんの方が私たち被災者のことを思い、応援してくれていると感じることができ、勇気ができました。</p> <p>あるくの拠点には、困りごとや未来への不安を抱えた人たちが毎日たくさん訪れました。それでも、人に会い、イベントに参加し、炊き出しと一緒に食事をするなかで、笑顔や笑い声が絶えませんでした。</p> <p>まだまだ、復興には時間がかかり、住宅やお店だけではなく、心や意識までが前向きに考えることができるまで、時間がかかります。</p> <p>私たちの活動も時の流れに合わせて、形を変えながら、住民のつながり作りやコミュニティ再建に向けて活動を続けていきます。</p> <p>今後とも、変わらずご支援をいただけたらと思います。</p>

